

暮らし向きは2年連続で悪化し、先行きも大きく悪化見通し

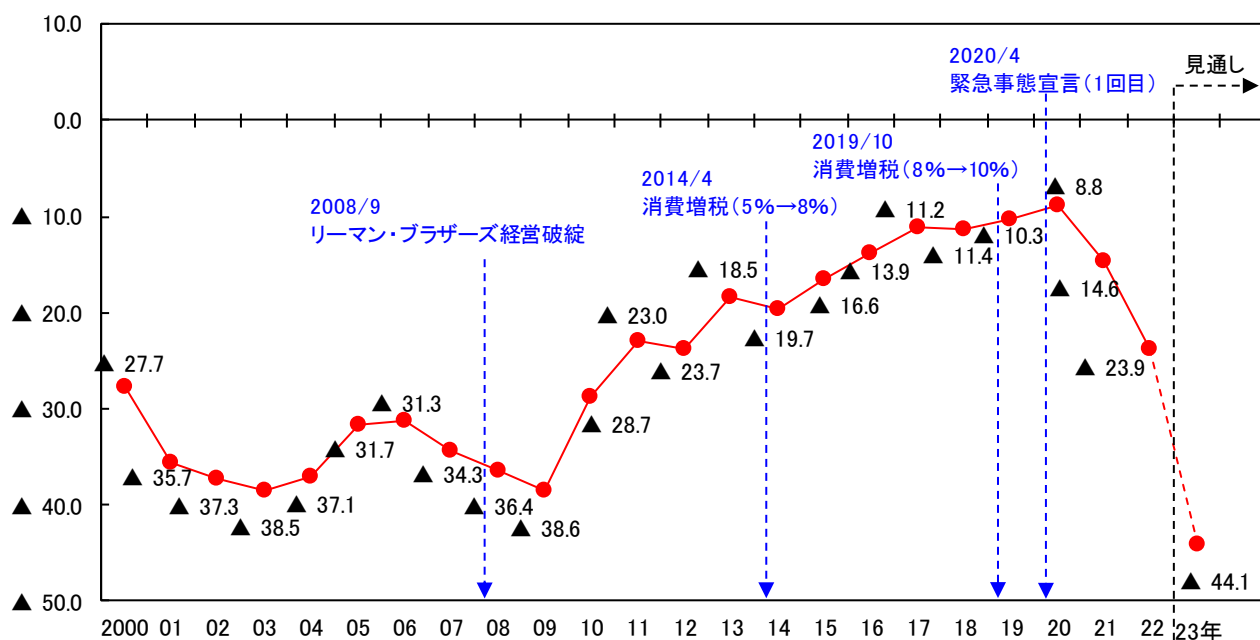
～物価高により家計負担が増しており、暮らし向きに大きく影響～

ごうぎんでは、このほど山陰地方の消費動向を把握するため、鳥取・島根両県内の消費者を中心にアンケート調査を実施した（調査要領は下記参照）。

足元（2022年11月）の暮らし向きについて尋ねたところ、1年前に比べて「良くなった」が4.7%、「悪くなった」が28.6%となり、「暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）」は前回調査（▲14.6）比9.3ポイント減の▲23.9と2年連続で低下し、10年ぶりの低水準となった。

なお、先行き（2023年）の「暮らし向き判断DI」は、さらに20.2ポイント減の▲44.1と非常に厳しい見通しとなっている。

図表. 暮らし向き判断DI（「良くなった」割合－「悪くなった」割合）の推移



【調査要領】

1. 期 間 2022年11月1日～11月18日
2. 対 象 鳥取県・島根県の在住者
3. 調査方法 当行営業店等の店頭にてwebアンケートを依頼、または配布した調査票を郵送により回収
4. 回 答 数 配布数2,480枚、有効回答数585（回収率23.6%）
5. 回答者構成比 10・20代6.7%、30代14.2%、40代30.1%、50代以上48.9%、不明0.2%

〔調査結果の概要〕

1. 暮らし向き

○足元（2022年11月）の「暮らし向き判断D I」は、物価高などを背景に前回調査（▲14.6）比9.3ポイント減の▲23.9と2年連続で低下し、10年ぶりの低水準となった。先行き（2023年）は▲44.1と非常に厳しい見通しとなっている。

2. 総収入の動向

○「総収入判断D I」は前回調査比9.7ポイント増の▲1.2となり、3年連続でマイナスとなった。

3. 消費生活の動向

○「消費支出額判断D I」は前回調査比32.8ポイント増の57.2と、2年連続で前回調査を上回った。
○消費生活の水準（満足度）は前回調査に比べて低下した。

4. 今後の家計の重点

○堅実姿勢が続くなかで「健康増進」や「貯蓄の充実」などが上位となった。
○若い世代以外でも「レジャー・娯楽」が上位にあり、行動制限の緩和などから余暇活動への興味・関心が強い様子がうかがえた。

5. 家計支出の動向

○この1年間で特に支出が増えた費目は、物価高を背景に「食料・外食費」、「水道・光熱費」、「交通費（ガソリン代含む）」が上位を占めた。一方、特に支出が減った費目のうち、最も回答割合が多かったのは「旅行・レジャー・娯楽費」だった。
○今後1年間で特に支出を増やしたい費目については、行動制限の緩和などから「旅行・レジャー・娯楽費」が最も回答割合が多かった。一方、特に支出を減らしたい費目のうち、最も回答割合が多かったのは「水道・光熱費」だった。

6. 貯蓄動向

○全体では「増加した」が「減少した」を上回った。
○貯蓄残高は『500万円未満』が5割強を占めた。

7. 雇用に対する不安

○全体では不安が緩和。

8. 日常生活で使っている現金以外の決済手段

○2019年調査に比べ「QRコードやバーコードなどのコード決済」が10.3ポイント増と最も増加した。
○使用頻度を増やした理由としては、「現金やカード等を持ち歩く負担の軽減」